

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム百楽苑
(ユニット名)	Bフロア(ひまわり)
所在地 (県・市町村名)	蒲郡市三谷町南寺戸12-1
記入者名 (管理者)	宮瀬 恵美子
記入日	平成 20年 11月 25日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域との関係強化、ニーズへの対応など職員全員で確認理解し、理念を取り上げている。	<input type="checkbox"/> 地域住民との交流を増やし、地域密着型サービスの役割を進めていきたい。今後も積極的に地域との関わりを持っていきたい。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は常に目の付くところに掲示している。常に意識しながら支援している。	<input type="checkbox"/> ミーティングなど常に議題にあげ職員同士で意見、意識の統一を図りたい。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族の来苑の際、目の付くところに貼り、時折会話の中で触れ伝えるようにしている。施設の行事には家族にも参加を促している。	<input type="checkbox"/> パンフレット等作成の際、理念に必ず触れ地域に対しても役割を伝えるように努力したい。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	地域内の保育園、小学校等の交流会を行っている。小学生がホームに来て、手品等のボランティア活動。保育園の催しに参加したり、園児がホームに来て歌を唄ってくれたり相互交流を行っている。買物やゴミ捨て散歩の際近隣の方とあいさつをしている。	<input type="checkbox"/> 定期的に地域の方々を招いてお話会など設けて付きあいを深めたい。日頃からのコミュニケーションを続け円滑な関係が継続できるように地域住民との交流の場を増やしていきたい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	隣接の保育園の行事に参加したり、保育園児に来てもらって交流を図っています。花火見物会には、地域の方々、ご家族等を招き、交流を深めていきたい。	<input type="checkbox"/> 地域のボランティアなどの交流を定期的ではなく日々の生活の中で常に活動に来てくれるようにしたい。グループホームを知ってもらおう活動を続けていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域、家族の方に認知症の理解や接し方の勉強会など開催し、パンフレットにて周知している。	○	勉強会など定期的に開催いつでも地域の方々の相談を常に受ける体制を整えたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎日の申し送りで利用者の個別案件を話し合い、全職員でサービスの質の向上につなげられるよう努めている。	○	サービス向上に努めるため外部評価の結果をふまえ改善計画を作成し取り組んでいきたい。今後もケアに生かせるように継続していきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	半年に一度開催し、委員の方たちから、率直な意見等を頂き、サービス向上に活かしています。	○	運営推進会議を通じて委員の方から意見、助言をして頂き、サービスの向上に努めたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当窓口へ出向いたり担当者の訪問時に事業所のケアサービスの取り組みを伝えている。	○	利用者の課題解決のため、市町村と連携して共に取り組んでいきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	関連する資料が自由に閲覧できるようになっている。	○	今後もこのような研修に参加することで知識を深めて行き、その様なケースの利用者に援助をしていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	介護者にストレスがたまらないよう、職員間で話し合いの場を待ち、介護者の息抜きが出来るようにしている。虐待はないと考えられる。	○	勉強会などを行い、虐待防止法を遵守したい。周知したい。今後もケアに生かせるように継続していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族等と対応方針を相談し決定している。十分な説明をしている。	○ 事業所の考え方、取り組み、起こりうるリスクなどを説明し同意を得るようにしている。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者一人一人が我慢することがないように常日頃から思いを聞くように対応している。利用者の言葉や態度から思いを察する努力をし、要望や意見を全職員が把握している。	○ 利用者の声に耳を傾け、その声を大切にし、職員間で話し合っていきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的に手紙・新聞を送付し、様子を伝えている。また、面会時に、近況報告を行っている。	○ ご家族にケース記録を見てもらえるようにしたい。ご家族とコミュニケーションをとることを継続したい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的にご家族へ手紙と写真を送り、現在の様子を伝えるようにしている。来苑時には、ご家族と話し合い、なんでも言い合える良好な関係を築き、よい雰囲気作りをしている。	○ 家族会などを設け意見を出せる仕組みを作っていきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議、チーフ会議その他必要に応じ全職員から意見を聞けるようにしている。定期的にミーティングを行い職員の意見を運営者と協議している。	○ 職員の意見を言いやすい、聞きやすい環境、機会を作っていきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の状態やペースに合わせたローテーションを組んでいる。柔軟に職員の配置を考えている。出来るだけ家族にいた時の状態を保てるよう、その都度必要に応じた対応を考える。	○ 利用者の状況に合わせた柔軟な勤務体制が出来るように対応していきたい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	全職員の各ユニット関係は無しで利用者に名前と顔を覚えて頂き、ユニット内の移動があっても安心していられるようにしている。異動の職員は、少しの間は、「研修」と伝え、利用者には不安感を与えないようにする。新しい職員が入る場合も、利用者で紹介をしている。	○ 利用者が不安にならないように引継ぎを行い、不穏になる利用者の為に、「研修」と伝えている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>事業所外の研修にもなるべく多く受講し、日常的にも学ぶ事を推進している。</p>	<p>○</p> <p>常に向上心を持ち、仕事に取り組み、研修が活かされるように促しや気持ちを高めるような指導をしていきたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>全国GH協会に入会し必要な研修を受講している。</p>	<p>○</p> <p>交流を深め、情報交換や相談をしていきたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>日常や面談時に職員のストレスや悩みを把握するように努めている。</p>	<p>○</p> <p>定期的に親睦を図る為、食事会を実施し、相談できる雰囲気を作っていきたい。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員の質の向上、人間力向上を図るための入社時の研修ほか定期的に研修を行っている。</p>	<p>○</p> <p>今後も継続して、良好な職場を構築していきたい。</p>
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>管理者が入居前に本人に会って、生活状態や心身の状態を把握し、それをケース記録に記述し、職員全員に伝えている。</p>	<p>○</p> <p>利用者、ご家族の思いを受け止め、そのケアに沿った対応をしていきたい。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>契約前に何度も面談に行き、これまでの経緯を聞き取りしている。話を聞くことによって、少しでも落ち着いてもらい、信頼関係が作れるようにしている。</p>	<p>○</p> <p>ご家族の話を聞き不安を取り除き、今後のサービスに活かせるよう努力したい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	困っていることや不安な事に対して、出来る事は直ぐに実行している。	○	ご家族のニーズを個人で抱え込むのではなく、ケアマネなどと連携しながらサービスを提供していく。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族やそれまでかかわっていた関係者にいつでも来ていただき安心感を持ってもらえるようにしている。納得していただいた上での利用を心がけている。本人の個性を見極め他利用者や場の雰囲気にゆっくり徐々に馴染めるように工夫している。	○	安心感を第一に利用者、家族と何度か足を運んでもらい徐々に慣れてもらう。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	共に暮らす者同士として、苦しみ・不安・喜びを共感している。	○	「人生の先輩」という気持ちを常に持ち、敬う気持ちを忘れずに関係を築きたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族と職員の関係を密に保ち、利用者と一緒に支えると言う共通の思いで支援している。また小さな事でも報告を欠かさず、必要に応じて協力を得ている。	○	今後もご家族と連携を取り、利用者を支えて行きたい。ご家族のこれまでの介護方法を教えてもらい生かして行きたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族の本人への思い、本人のご家族への思いの橋渡しとなれるように努めている。ご家族、利用者の思いや状況を見ながら、外出、外泊をしていただいたり行事に参加してよい関係を保っている。	○	本人とご家族の絆を第一に考え、ご家族の役割を奪わないようにしていきたい。円滑な関係がこれからも維持できるようにサポートしていきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの床屋に行き、気分転換を図ってもらったりしている。	○	地域との関係を密にし継続的な交流ができるようにしたい。今後もご家族との関係同様、大切にしていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係を注意深く見守り、皆で楽しく過ごす時間や気の合うもの同士で過ごせる場所作りをし、利用者同士の関係がうまく行くように支援している。個別に話を聴いたり、相談にのりすべての職員が関係を把握している。	○	利用者同士が気持ちよく過ごせるよう、リビングの座席配置を見直す等工夫したい。共同生活の良さを生かしたケアを今後も続けたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他の施設へ移られた方やご家族の方にも年賀状をお送りしている。相談があった場合は随時、相談に応じている。	○	いつでも気軽に遊びに来てもらえるよう継続的な付き合いをしていきたい。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的に声掛けに努め、言葉や態度から受け取る事を注意深く観察している。本人にとって何が最良かを常に考えている。本人の性格を把握して言葉や表情から本人の思いを汲み取り、本人の視点に立って考えている。	○	表情からも真意を推測したり、ご家族からも情報を収集しサービスに生かしたい。言葉に出来ない思いを汲み取るよう努めていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者自身からの話や訪問時などにご家族や友人等にそれとなく話を伺っている。カルテにて、サービス利用の経過等把握している。ご家族の面会時にさりげなく聞くようにしている。	○	プライバシーにも気を配り自宅訪問なども行っている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者の一人一人の一日の暮らしの流れに沿い、状況を総合的に把握し、職員全体がチームとなり、できる事に着目し一人一人の生活リズムを把握するように努めている。	○	どのように過ごしているか細かく記録し、介護計画に生かしたい。今後も顔色、表情、ADLの低下等細かいことに気を配れるようにしていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員間の意見交換により介護計画を進めている。利用者やご家族に日頃のかかわりの中での思いや意見を聞き反映させるようにし、利用者が自分らしく暮らせるよう課題となることをカンファレンスを行いながら、介護計画を作成している。	○	今後も継続。もっと臨機応変に対応できるよう、その時々にあったニーズに応じていきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員が記録するケース記録に利用者の状態変化や状況、ご家族、利用者の要望に応じて臨機応変に、その都度、ケアプランを見直しを行っている。状態変化があったときは職員同士で検討し介護計画を見直している。	○	現状とサービスとの違いがないようにケアプランの見直しをしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、その日一日の個々の様子や変化などを細かくケースに記録し、職員間で情報を共有し合って、より良い介護計画の作成に活かすようにしている。	○	職員の気づきを職員間で話し合い、今後の支援につないでいきたい。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	日常の健康管理、緊急時対応の体制を法人内の看護師とかかりつけ医とで連携している。本人、家族の状況に応じて通院、送迎や買物等必要な支援は柔軟に対応し個々の満足度を高めるように努力している。	○	今後も継続要望に応じて支援を行っていきたい。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議を利用し地域の民生委員、介護相談員、包括センター職員、老人クラブ会員さんと意見交換を行っている。中学校、小学校のボランティアを受け入れ、交流を図っている。	○	メンバーを固定せずいろいろな方が参加して頂けるように努力して行きたい。ボランティアなど協力依頼し交流を深めて行きたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	小学生ボランティアが定期的に訪問して下さる。必要に応じて介護保険外の生活支援に結びつくサービスを受け入れられるように努めている。	○	必要に応じて、地域のケアマネージャーやサービス事業者と連携していきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に参加してもらい地域の高齢者に関する情報や動向について情報提供を、アドバイスを頂いている。	○	成年後見制度が必要と思われる利用者には、地域包括支援センターと協力してその利用者を支援していきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用前からかかりつけ医を受診できるよう家族と協力し通院介助や訪問診療(月2回)に来てもらっている。指定医による月2回の往診をしている。体調不良時は受診し、又休日は救急外来へ受診している。	○	かかりつけ医ともっと相談できる場を設けていきたい。



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	月2回往診してもらいその時に相談、現状報告を行っている。市内に心療内科があり、認知症についての診断や治療方針等の指示をうけている。	○	今後も困った時など、いつでも連絡体制が取れるようにしたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	週2回定期的に法人内の看護師が利用者の健康チェック、状態の確認をしている。経験のあるパート職員がいる為、日頃より体調管理に気を配っている。	○	今後も医療面からのサポートを継続していきたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院によるダメージをなるべく防ぐため医療機関、医師、ご家族等とカンファレンスをしている。入院中の見舞いを頻回に行い、利用者の状況、状態を把握している。	○	今後も医療機関と連携し利用者の支援をしていきたい。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者やご家族の意向、利用者にとってどうあったら良いのか、事業所が対応しうる最大の支援方法を踏まえて、方針を職員で話し合い、かかりつけ医と方針を共有している。	○	医療連携を含めサポートをしていきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	利用者やご家族の意向を踏まえ、医師・職員・ご家族と連携をとり、安心して納得した最期を迎えられるように意思を確認しながら、取り組んでいる。	○	利用者、ご家族が不安にならないように支援していきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	今までの暮らしの継続性が損なわれないよう、きめ細かい連携を心がけている。他の事業所に移られた時、ケアに関する情報、嗜好を伝え新しい暮らしのショックが少なくなるよう努めている。移転後なじみの職員、利用者で面会に行く事もある。	○	ケアプランなどを情報交換を行い、円滑に移り変わりが出来るようにしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人前での介護や誘導の声掛けをして、本人を傷つけてしまわないように、目立たず、さりげない言葉かけや対応に配慮している。	○ プライバシー・羞恥心に配慮している。今後も気配り・目配り・心配りの対応を心がけていきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員が決めるのではなく、利用者の希望を言えるような環境作りに心がけている。	○ その人に会った声掛けを心がけ表情、雰囲気も含め汲み取って支援していきたい。今後も自己決定を尊重しサポートしていく。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、その日、その時の本人の気持ちを尊重して、その人なりの時間の流れに沿って支援をしている。話を傾聴し、日々の暮らしがその人らしいものとなるよう支援している。	○ 一人一人の体調に配慮しながら、職員とゆっくりおしゃべりを楽しむ等、利用者のペースに沿って行っている。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	朝の着替えは基本的に本人の意向で決めており、職員は見守りや支援が必要な時に手伝うようにしている。	○ 本人の馴染みの理美容院で希望にあわせたカットや毛染めをしてもらえるようにしている。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の能力に合わせて調理・盛り付け・片付けを職員と一緒にしている。食事準備などを手伝ってもらったり、何を食いたいのか話し合いながら職員と同じテーブルで同じものを食べている。	○ 今後も継続し、利用者と協力し、手作りおやつを作りたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者の体調を把握し、可能な範囲で個別で饅頭等を食べて頂いている。本人の様子を見ながら、それを楽めるよう支援している。	○ 利用者の要望があればそれに合わせて楽しんで頂けるように支援していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人一人の身体能力を見極めそれとなく、トイレ誘導を行ったり、汚染等がなくなるように排泄のための工夫を行っている。あからさまの誘導ではなく、さりげなく支援している。	○	オムツをしている方の確認など本人が嫌がらないように援助したい。個々の快適な排泄方法を把握し、今後も取り組んでいく。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望の時間に入浴して頂く。基本的には毎日入浴に声掛け、利用者同士で入って頂いたり、入浴の嫌いな方は、職員を変え声掛けしている。	○	その日その日の気分に合わせて、今後も継続していく。入浴が楽しいものとなるよう利用者の希望に沿った時間に入浴できるよう配慮したい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の活動、レクリエーション等を促して、一日の生活リズムを本人の体調、表情を考慮し、昼寝など休息時間をもうけたりし支援を行っている。日中の活動量を増やし、眠剤を使わずにゆっくり休息が取れるように支援している。	○	今後も継続。昼夜逆転しないように注意していきたい。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日頃からやりたい事や行きたい所等を聞くようにして、一人一人の希望に沿って支援をしている。個々の力を引き出して頂く為、施設でもお手伝いをお願いしています。	○	利用者全員が楽しみ生きがいを持てるよう配慮したい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの利用者が立替え払いをしている。本人の希望により小額であるが、ご家族との相談により、お金を所持していただき、ご自分の好きなものを買う楽しみを持っている方もいる。	○	個々の能力に合わせた支援を続けていきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	おやつ時に喫茶店に行ったり、外食に出かけたり、その日のスタッフの人数によりドライブ等に出かけている。ドライブがてら買物に寄ったり、気分転換を図っている。	○	馴染みの店や場所に行けるように支援していきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	行事計画を立て普段いけないようなところに外出している。本人希望で外出したり、集団行動が苦手な利用者は個別に喫茶店に行くようにしている。	○	一人一人の思いや願いを叶えられるよう、利用者・ご家族と相談し、協力を得ながら実現に向けた取り組みをしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて、日常的に電話や手紙を出せるよう支援している。ポストへの投函は職員と一緒にしている。	○	本人から希望している場合、プライバシーに気をつけ援助したい。ニーズに合わせて対応していきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつも気軽に会いに来て頂けるよう配慮している。玄関には、利用者の作品や絵が飾っており、職員も笑顔で対応している。	○	居室にて来苑者と利用者が気を使うことなく会話できるように配慮していきたい。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の内容とその弊害を認識し、利用者が受ける身体的、精神的な痛みを理解し、職員全員が身体拘束について考えながらケアしている。	○	身体拘束によって利用者が受ける身体的、精神的弊害を認識し拘束の無いケアをしていきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者本人の意思により、鍵を自室にかける方も見えるが基本的には鍵をかけずに自由を優先と考え、職員による見守り、連携を取っている。玄関は日中、玄関は鍵をかけず外出しそうな時はさりげなく付き添う。	○	安全面に配慮して自由な暮らしを支えるようにしたい。近隣の方々への施設の理解を深めるため、行事、会談等行い声掛け、見守り、連絡等していただける関係を築きたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者本位にて居室で静かに過ごしたい方、リビングでゆっくり過ごしたい方等、職員は利用者の所在を把握している。職員、パート職員がフロアに必ずいて、見守りをしている。夜間は巡視、モニターにて確認している。	○	プライバシーには十分配慮し見守りを行っている。安全についてハードソフト両面から配慮し対応を続けたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ハサミや包丁など、危険が生じる恐れのある物は、利用者の見えない場所に置き、使用する場合は職員が見守りをし、使用して頂いている。	○	職員一人一人が常に気を配り、注意の必要なものは気をつけて対応したい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット、事故報告書を記入し再度繰り返さないように常に検討している。万が一の場合は家族への説明と報告を行っている。また事故対策委員会を実施している。	○	一人一人の様子を観察しその人に合った事故防止に取り組みたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	入社時全職員に救急救命講習会に参加している。希望者にはそのた勉強会に参加している。緊急時の対応について、マニュアルを整備し速やかに対応できるように努めている。	○	いざという時的確な行動ができるよう、職員間で徹底していきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、年2回避難訓練を行っている。消防署の協力を得て、消火器の使い方等の訓練をしている。	○	実際の災害時に地域の方々に協力して頂けるように一緒に避難訓練をして行きたい。今後も避難訓練など行って行きたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面会時、ご家族と話し合う機会を持っている。訪問が難しいご家族には、手紙を書いたり、電話をしたりして、話し合っている。	○	家族に分かりやすく、はっきりとした口調で伝えて行きたい。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタル・体温・顔色等利用者の様子を観察し、医師・看護師に報告している。フロア連絡ノートを作成しており、小さい事でも記入し、情報を共有している。	○	普段から利用者の状態に気を配り、変化が見られたときは速やかにかかりつけ医、看護師と連携を取って行きたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	本人に手渡し、飲み込むのを確認している。薬の変更があった時などは、本人の状態を観察し、薬への理解を深めている。一日の水分摂取量のチェックをしている。	○	薬が変更になった場合には、フロア連絡ノートに記入している。薬箱にもメモ書きし、職員全員に周知してもらい、誤薬等ない様に情報を共有していきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	すぐに薬には頼らず、水分を多めに飲んでもらったり、散歩など体を動かすように働きかけ、自然排便を促すように努めている。	○	おやつ時には牛乳を飲んでもらい、適度な運動をして頂き、薬に頼らない取り組みを続けていきたい。今後も一日の水分摂取量のチェックをしていきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアを自己でできない方には、毎食後、声掛けをし、できない部分だけ介助している。夜間はポリドントにて洗浄している。	○	今後も継続。歯磨きの声掛け、支援を行って行きたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の一日の栄養摂取量や水分量はケース記録に記入し、全職員で把握できるようにしておき、その日の状況、状態を見て個々に支援を行っている。食事量をケースに記録し、摂取量が少ない人は補助食にて対応している。	○	習慣に応じ温かいもの、冷たいものなど本人の希望に応じて支援して行きたい。今後もおいしく食べてもらえる工夫をし調理法など検討して行きたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症についてはマニュアルが作成しており、全職員が対応できるように努めている。手洗いうがい清潔を心がけ早期発見、対応、情報収集を行っている。感染症に関して情報収集を行い早期発見、早期対応に努めている。布団干し、入浴、足浴等で清潔を保っている。	○	手入れの手すり等は掃除の時に拭いているが廊下の手すり、脱衣所のドアノブ等もアルコールの拭きつけタイプのもので消毒したい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所、調理用具の点検、掃除の徹底、食材の鮮度の確認、冷蔵庫の掃除、食材の残り物の点検に気を配っている。	○	基本的な手洗いなど確実にを行い衛生面など安全管理に努める。今後も台所チェック表を実施して行きたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	下駄箱の上には季節の花や入居者作成の折り紙等を飾っている。ベランダには椅子が置いてあり、自由に出入りできるようにしてある。玄関には花を生けたり、季節感を出している。	○	今後も皆様に喜んでもらえる環境作りに努めたい。他の高齢者なども気軽に出入り出来るようベンチなど置きふれあいの場を設けたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの壁には利用者の行事で写した写真や季節感のある職員や利用者で作成した絵や貼り絵など飾り、明るく楽しく会話ができるように気を配っている。五感や季節感を意識的に取り入れる工夫をしている。	○	今後も皆様に喜んでもらえる環境作りに努めたい。音楽や好みの映画等でよりくつろげる雰囲気心がけたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや居室は時間等関係なく、自由に行き来でき仲の良い利用者同士で話をしたり、居室で一人で過ごしたりと常にくつろげるように配慮している。リビングの一部に畳があり、くつろげる場所が作ってある。	○	今後も継続。歯磨きの声掛け、支援を行って行きたい。畳の部分やテラス等をもっと活用し利用空間を広げ居心地の良い居住空間となるように働きかけをして行きたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた日用品やアルバムが置いてある。TVがあり一人一人好みや馴染みのものなど居室に置き居心地のよさに配慮している。行事の写真を部屋に置いたり、使い慣れた馴染みの物を使用してもらい、利用者の居心地の良さを考え配慮している。	○	カーテンや壁など利用者の気に入ったもの、色等にしたらより良く過ごせると思う。本人のニーズに合わせた環境作りにも今後も努めていきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	トイレ・お風呂・台所は換気扇と消臭剤で消臭の工夫をしている。	○	トイレマットの上におしっこシートを置き、尿を吸収して、消臭の工夫をしている。今後も継続していきたい。
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できる事は自己にて行っていただいている。転倒など見守りに心がけている。フロアはすべてバリアフリーにしてあり廊下、浴室、トイレには手すりを設けて安全確保と自立への配慮を行っている。	○	個々の状況、状態を把握しその時にあった安全な環境作りを臨機応変に対応して行きたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	失敗が続く時は、申し送り等で話し合い、失敗を防ぐ方法を職員で考え工夫している。トイレへの看板等をつけて、分かりやすくしている。失敗してもその方を責めず、違う方法を考えるようにしている。	○	トイレ内にはパットの必要な利用者の入れる箱を用意その中にパットを切らさないように置いてある。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物前の駐車場空き地で花作りを楽しめるスペースを作り、季節の花を植えている。入居者の張り合いのある生活の支援を行っている。ベランダには自由に出入り出来て長いすに座って話が出来スペースも用意してある。花火見物、すいか割り等、家族と一緒に楽しまれたりしている。畑のスペースを確保、車椅子の方の日光浴もしている。	○	外気に触れられる一番身近な場所であるのでくつろぎ、歓談、飲食、休息などもっと幅広く活用して行きたい。本人のニーズに合わせた環境作りにも今後も努めて行きたい。

V. サービスの成果に関する項目	
項 目	最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある
	<input type="radio"/> ②数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> ③たまにある
	<input type="radio"/> ④ほとんどない
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
94 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> ④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

認知症の方と過ごす日々は、楽しい事がたくさんあります。グループホームで認知症の方と接して思うことは、やれることを奪っているのではないか、ということ。私達が思う以上にできることが多くあり、教えてもらう事もいっぱいあります。認知症高齢者が一番必要としているのは、安心だと思います。意味不明な事を言われても、しっかり傾聴してあげる心のゆとりを持ち、初心に戻り、本人の為に私達は何かができるかを、毎日の生活の中で考えていきたいと思っています。